

西川 松之さん（広島県広島市南区出身）
2018年度2次隊 シニア海外協力隊
派遣国：インドネシア 職種：金属加工
2019年11月17日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

若者に鑄造技術を助言

インドネシアは人口の大半をイスラム教徒が占め、文化や習慣は日本と大きく異なる。朝の4時前、近所にあるモスクからアザーンという祈りの呼びかけが大音響で鳴り響く。朝というより夜明け前から活動が始まる。

また、この国では「Jam karet（ゴムの時間）」という言葉があり、時間がゴムのように延びることを表している。何事も時間通りに始まることはまずない。そんなインドネシアに暮らし、1年がたつ。

私は今、ジャワ島の西に位置するバンドンで、国際協力機構（JICA）のシニア海外ボランティアとして活動している。バンドンは標高700～800mにあり朝晩は肌寒いくらいの気候である。海沿いに比べずいぶん過ごしやすい。この辺りはスダ人が多く、スダ料理は絶品。近年増加する車とバイクの騒音や渋滞、大気汚染の問題さえなければとても住みやすい所だ。

私の配属先はMIDC（金属工業開発センター）。そこで日々、職員に鑄造技術のアドバイスをしている。この国の人たちが品質の高い部品を生産することが目標である。若い職員は私の話を聞きながらも、自分が思うように実験を行う。そしてその結果が悪いとやっとアドバイスに耳を傾けてくれ、実験が成功するといつも笑顔を見せてくれる。失敗と成功を繰り返しながら、一步一步進んでいることを共に実感している。

しかし残念ながら設備にもかなり問題があり、思うように進まないことも多い。日本の状況とはかなり異なるので、それに合った解決法を考える毎日である。



キャプション：
同僚と鑄造品の不良品対策に取り組む